

第174話 本町域の私塾・寺子屋③ 中山町 歴史散策

柏倉南邱塾

柏倉南邱塾は、岡村の柏倉九郎兵衛の六代目を襲名した通称「敏」を師とした塾で、天保4年（1833年）以降に開設されました。天明2年（1782年）に同家に生まれ、のちに良達とも称しました。漢字と書道を教授し、特に書家としての名声が高かったようです。初めは米沢藩に招聘された著名な学者細井平洲に学んだと伝えられています。定かではありません。のちに仙台瑞鳳寺の名僧南山禅師のもとで漢学と書法を学びました。師の南山禅師は、「日本外史」の著者で江戸後期の儒学者、史家の頼山陽とも親交が厚かった人です。南邱の号は師の名の一字を許されたもので、天保4年、52歳のときに帰郷するにあたり、師から惜別の詩書が贈られました。帰郷後、塾を開き子弟の教授にあたりますが、自らも書道家として目覚ましい活躍がありました。

天保6年（1835年）前柴橋代官池田仙九郎但季の永年の治績を記念し、「池田府君仁政之碑」が日和田村（現寒河江市立醍醐小学校庭）に建立されましたが、この碑文も南邱が54歳のときの揮毫です。また、町内に残るものとしては、菩提寺である頼円寺所蔵の詩書双幅・高橋長谷雄家所蔵の拓本、小塩と柳町八坂神社の大神宮碑、岡の岡観音堂の幟など、たくさん遺筆があります。その名声は高く、当時、村山地方第一の書家として評されていたことを物語っています。塾の門人の数は不明ですが、請われれば心やすく作品を与えたといわれ、その人柄が偲ばれます。南邱は、柳沢の著名な画家、西塔太原とも親交がありました。

その後、嘉永7年（1854年）3月、病により73歳で亡くなりました。

※引用 中山町史 中巻

第10章第2節 教育

私たち地域おこし協力隊です！ No.42

山形2年目の冬。去年ほどではないものの少し身構えている稲垣です。今回は温かいお話をしたいと思います。

九左衛門家には囲炉裏や大きなカマドがあり、暖房の少ない昔の暮らしではとても温かい場所で、ご飯を作って家族で囲む場としてもぬくもりのある場所でした。東日本では囲炉裏だけ、西日本ではカマドだけを設ける民家が多く、東西文化の違いの一つとして様々な研究がなされています。

気密性の高い現代の家と違い、古民家にはわずかに隙間が生じてしまいます。これこそ古民家が寒い理由の一つですが、わずかな隙間があることで煙の排気ができ、屋内で火を焚くことができます。囲炉裏やカマドの火焚きは古民家の維持管理をする上でも重要で、私も学生時代から古民家で囲炉裏の火焚きをしてきました。この火焚きの作業は12月から冬期休館になっても柏倉家住宅で行う大事な仕事の一つです。

ところで、三重県では「ご飯をかす」という言葉を使います。お米を洗って炊くことですが、他地域の方に伝わらないことが多いです。「炊ぐ」という古語の名残とされ、「ご飯をかしぐ」という言い方なら東北にも残っているそうです。



火焚きをする筆者

●協力隊への問い合わせ先● 伊藤 ☎662-2114（産業振興課）／ 稲垣 ☎662-2235（教育課）